

今号では、学校教育活動を側面から支えている『事務職員』の資質向上に向けた研鑽の様子や『学校事務の共同実施組織』における適正・効率的な事務執行に向けた取組みの一端についてご紹介します。

編集・発行の都合上、暦を少々遡ったトピックの掲載となりますことをご承願います。

## 管内小中学校事務職員研修会

(H28.9.14/江刺総合支所)

受講者の声

### ◇講義「チームとしての学校の力を高めるために」～文部科学省初等中等教育局

参事官(学校運営支援担当)付 運営支援推進係長 阿久津 充氏

- 子どもたちをめぐる実態とこれからの教育
  - 次世代の学校・地域の創生に向けて3つの改革
    - ①地域と学校の連携・協働 ②学校の組織運営 ③教員制度
  - 事務職員をめぐる動き
    - ☆事務職員の職務内容を法律上明確化、配置の充実。
    - ☆学校事務の共同実施組織を法律上明確化。
- チームとしての学校への転換
  - 「子どもに関わることはすべて教員」という文化から、多様な専門性を備えたスタッフによるチーム体制へ転換。
- 学校現場の業務の適正化に向けて
  - ①教員の担うべき業務に専念できる環境の確保
  - ②教員の部活動の負担軽減 ③働き方(長時間労働)の見直し
  - ④国、教育委員会の支援体制の強化
- 事務職員の皆さんへのメッセージ

○目の前にあることの処理に追われがちだが、広い視野や将来の目標について考える機会となった。

○事務職員が変わることは必然、苦手と言っていたら残った。

○学校のため事務職員に求められる力とは何か、改めて考える機会となった。意識しながら業務に取り組んでいきたい。

○文科省の本気を感じた。事務職員ご出身だから学校のことをよく理解されているし、心強く感じた。

○10年、20年後の夢を示していただいた。私たちも目指していきたい。

○昔、先輩方に教わった心構えが今やっと制度になろうとしている。道を信じて今後もがんばろうと思う。

- 事務職員は、キャリアを通して一貫して学校経営に関わることのできる唯一の職。強みを生かし学校運営へ参画を。
- 「チーム学校」のマネジメントの要として、事務職員がその役割を担うことができるという価値観へ。
- 学校が抱える複雑・多様化した課題を克服するために、教員だけでなく、事務職員が変わることは必然。
- 自身を持って取り組めるよう、成功体験を積み重ね、事務職員も含め、組織全体の効力感を高めていくことが大切。

## 学校事務の共同実施 ～適正な学校事務執行に向けての取組み～

### I 共同実施組織総括等職員研修会 H28.6.22/一関合庁

管内15の共同実施組織の総括・副総括等の職にある30名を対象として実施。『共同実施組織の充実・活性化について』グループ毎に協議・意見交換を行いました。

#### 協議① 共同実施組織の人的変容への対応

##### 【背景等】

- ①今後数年間見込まれる定年退職者の増加
- ②定年退職者の増加に伴う若手職員の増加
- ③ジョブローテーションによる小中学校事務未経験者の配置

課題 ●共同実施組織に蓄積された、知識・能力や組織運営のノウハウ等の円滑な次世代への移転・継承。

●共同実施組織の質をいかに保つか。

- テーマについて討論することで各自の認識を共有できた。その上で共同実施の本来の目的達成について考えることができた。
- 共同実施の問題点を再確認することができ、参考となった。

受講者の声

#### 協議② グループリーダーの在り方

共同実施組織が抱える課題に取り組む上で、グループリーダーとしての在り方や関わり方等について、議論・意見交換。

課題 ●組織構成員のモチベーションの高揚、スキルアップと自発的組織への進化

- 創意工夫が図られる風通しのよい組織運営
- 効率的な組織運営と業務の適正執行・質的向上(誤認定等の防止)との均衡

○初めて共同実施の総括となったが、組織運営について皆さんと議論することで参考となった。

○今後の学校、共同実施の在り方について貴重な話し合いができた。課題は多いと実感した。

### II 共同実施組織 訪問

(H28年9-11月) 一関市と平泉町の9組織を訪問し、活動の様子を見せていただくとともに、実務上の諸課題等について意見交換しました。

- いずれの組織も概ね適正に事務処理が行われ良好。
- 相互のチェック・牽制が慢性化せずに健全に機能。
- グループ内での議論が活発に行われ、風通しがよく、活気ある組織運営。
- 共同実施組織の活動も定着・深化し、効率的に事務処理。



【11/2 花泉グループの様子】



【11/16 千厩室根グループの様子】

◎当管内においては学校事務の共同実施組織の活動のみならず、事務職員一人ひとりが、日々資質向上に励んでいる様子が様々な場面を通じて見受けられます。県南教育事務所では、今後も学校事務の適正かつ円滑な推進と事務職員の皆さんのより一層の資質向上を支援してまいります。